

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4770800292		
法人名	医療法人博心会		
事業所名	グループホーム「うちな～家」		
所在地	沖縄県浦添市仲間3丁目1番13号		
自己評価作成日	平成23年12月14日	評価結果市町村受理日	平成24年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4770800292&amp;SCD=320&amp;PCD=47">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4770800292&amp;SCD=320&amp;PCD=47</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレト西205		
訪問調査日	平成24年1月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

住宅街の一角に施設があり、明るい空間作りになっています、時々隣人との窓越しの挨拶・買物など近くのスーパーへ利用者と散歩などできる限り地域へ出かけるよう支援し、地域の方も定期的に訪問に来て下さりふれ合いを楽しんでいます。又個々の力が発揮でき、楽しく笑顔で過ごして頂けるよう職員も日々のケアに取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開所から3年が経過した当事業所は、全職員で思いも新たに、地域密着型事業所として行政や地域協力相談員等と連携しながら地域との関係作りに取り組み、老人会との踊りや三線等で楽しく交流し、消防訓練では住民の参加や災害時の協力体制の構築に繋げている。また事業所の職員は、認知症高齢者を理解し、利用者が笑顔で安心して暮らせるように家庭的な雰囲気作りや利用者の尊厳を意識したケアに取り組んでいる。更に利用者のやりたい事や得意な事等意向の把握に努め、利用者個々の力が発揮できるよう生活プログラムに位置付けて支援している。事業所内は、季節感を採り入れ壁の掲示も整然とし加湿器やアロマ等で室内環境に配慮し、居室も個生を尊重し、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。今年度の目標達成計画についてはすべて実施済みである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日：平成24年2月20日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	十分ではないが徐々に地域との関わりが実践できつつある。。	理念は、昨年1月に全職員で開所後を振り返ると共に、地域密着型サービスの意義を再確認して新たに作成し、玄関横に掲示している。職員は、定例会等で理念を共有し、家庭的な雰囲気作りや利用者個々の思いに寄り添い、利用者の安心した暮らしの支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会(老人会)との月/1回の交流 買物・散歩へ出かけています。	散歩や買物を通して住民に立ち寄りの声掛けや挨拶を交わし、住民からの差し入れや消防訓練への参加等協力が得られている。自治会との交流も働きかけ、老人会が定期的に訪問し踊りや三味線を楽しむ等交流している。市内学校生徒の職場体験学習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の日に事業所の紹介 日頃の活動風景・作品展示を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者と意見交換をし実践できることから取り組んでいます。	会議は、市担当者や包括職員、家族・地域代表者等が参加して定期的に開催し、事業所の活動や利用者の状況、ヒヤリハット報告を行い意見交換を行っている。各委員への外部評価結果や目標達成計画の報告、協議事項等の記録が不十分である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や保護課への報告を行い連携を図っています。	市担当者へは、運営推進会議で事業所の実状を伝え、日頃は窓口を訪問し、新規利用者の情報収集やケア計画、生活保護等の制度について相談し、適切な助言が得られている。また市主催の事業所向け集団指導の開催や研修案内等、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、施錠せず日中開放しています 身体拘束禁止を理解し取り組んでいます	重要事項説明書等に身体拘束禁止の方針を記載し、家族に説明している。職員も利用者の自由な暮らしを理解し、日中玄関を開放している。しかし夜間の転倒防止に家族の同意を得てベット柵使用の利用者に対し経過観察記録や解除に向けた検討記録等がなく手順書も不整備である。	介護保険法における身体拘束禁止規定と身体拘束禁止の対象となる具体的行為、緊急やむを得ない場合の対応、手続き、記録の義務等について手順の遵守及び身体拘束解除のための工夫に取り組まれる事に期待したい。

沖縄県（グループホーム「うちな一家」）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあるが職員への勉強会は行えていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員の理解に止まっており全職員への勉強会は行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明、疑問や不安はその都度納得できるように説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議ではアドバイスや協力を依頼・意見や希望が話せるように声掛けを行っている。地域の相談協力員の参加も得られるようになった。	利用者の意向は、日頃の介護の中で声かけして聞いている。家族の要望は、運営推進会議、家族会等や訪問時に聴く機会を設けている。家族から「職員の名前がわからない」との意見があり、敬老会で家族と紹介ゲームを行ったり、名前と写真を掲示して意見を反映した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・個人面談等にて、意見を聞くよう努めている。	職員の意見は、定例会や半年毎の個人面談の他に人事考課用に記載した職員意見や要望等から把握するよう努めている。職員から「職員用ロッカーの整備やインフルエンザ予防に加湿器を設置して欲しい」との意見に法人と調整し、職員の意見を運営に反映している	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間2回(2月・8月)に人事考課を実施し向上心が持てるよう処遇改善が行えるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会その他法人外の研修へ派遣しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知通所介護との交流や外部派遣講師を招いての勉強会・同事業所の見学・実習等を実施し質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	戸惑いや不安がないように本人の訴えを傾聴し信頼関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者が不安なことや要望が話せるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人（可能であれば）や家族の意向を確認し他事業所との連携を図っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を見極め、得意分野を發揮して貰い共に支えあう関係作りを支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時に日頃の生活状況や健康状態を報告・写真等で日々の様子を伝える機会を設けて又病院受診を含め支援の協力依頼も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的外出をする利用者もいるが、ほとんど親戚等の面会・自治会の訪問が主、出かけて行くことがない。	利用者の馴染みの関係性については、アセスメントや本人との日常の会話で把握したり、家族や外出時に会う地域の人からも情報を得ている。事業所は、盆、正月時に利用者と親族交流を働きかけ、利用者の要望で家族や親族への電話支援や知人の訪問受け入れ等を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や相性に応じ配慮・食事の時間も職員も一緒に会話を持ち孤立しないよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居された方へは面会を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりで、本人の訴えを聞きながら意向に沿うよう声掛けを行っているが、1人ひとりのその人らしい暮らし方については不十分である。	利用者と日々関わる中で、意向を聞くと共に回想法等で生活歴を把握し、本人のやりたい事等を引き出すようにしている。困難な場合は、家族に聞いたり表情や行動で把握に努めている。無理強いせず本人の意向を尊重し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集、サービスへ反映されるよう職員間の共有ができるよう取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング等にて本人のできる力・能力を話しあい、1人ひとりの過ごし方について努めていますが、不十分であり今後の課題でもある		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話しあったり、本人・家族の意見・主治医意見書反映させ作成しているも全利用者の主体的な暮らし個別の具体的な介護計画には至っていない。	担当者会議には、本人や家族が参加し意向を確認して介護計画を作成している。習字の好きな人、家事作業の得意な人等、本人の力を発揮できるよう計画に位置付けている。毎月のモニタリングと半年毎の定期見直しや職員間で情報を共有し状況変化に応じた見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は個別の記録に記載、職員間の情報提供・始業前の申し送りにて共有し介護計画書の見直しにも活用している。		

沖縄県（グループホーム「うちな一家」）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズへの対応につとめていますが既存のサービスが中心になっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の方と情報交換を行い、定期的に老人会来訪(民舞・談話)ボランティアにて定期的に散髪も協力支援が予定されています。消防訓練にも近隣の方が参加しました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっています。受診が困難な場合は代行支援も行っている。	利用者等が希望するかかりつけ医を受診し、他科受診も家族が同行している。重度化に伴い3人の利用者が訪問診療を受けている。受診時の医師への情報提供は、メモや口頭で家族に伝え、受診結果の報告は口頭で受けている。薬の管理は管理者が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制がなく看護職いないが、日々の報告・連絡・記録による情報を受診時や往診時の際、医療機関へ提供している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に入院先の相談員や看護師と面談入居中の情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームにて看取りもあり・研修参加していますが、関係者全体・事業所の体制・対応方針について不十分です。	利用者の状況変化に伴い、家族の意向を反映して今年の7月に医師と連携し、事業所で看取りを行っている。しかし重度化や終末期については、法人の方針として母体施設で受け入れて行く事になっており、事業所としての対応方針が明確にされていない。	事業所として、重度化や終末期について関係者も含めての統一した方針の作成が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急救命法の研修を行っているが、一部の職員に止まっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を実施（消防署協力あり） 今回は地域・家族の参加もありました 災害時の備蓄についての確保は出来ていません	消防訓練が年2回実施され、近隣住民、家族、給油所の従業員等が参加している。防火器具は緊急通報電話や消火器等が設置され、今月の下旬からスプリンクラーの設置工事が予定されている。災害訓練時の地域住民の参加についての目標計画は達成されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意識し支援するよう努めていますが、不十分です	言葉かけもプライバシーを損ねないように対応している。気になる場合は、その場で注意している。食後のデザートを一人ひとりに好きなものを選んでもらう場面があり、一人ひとりを尊重した対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意識し支援するよう努めていますが、不十分です		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意識し支援するよう努めていますが、全利用者へは行えていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	努めているが不十分である		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物・調理の下ごしらえ・盛り付け・配膳等利用者の出来る事を職員と一緒にに行い、利用者に応じた食事を提供、職員も同じテーブルを囲み食事をしています。	献立は母体法人の栄養士が作成し、三食共事業所の職員が作っている。利用者は職員と一緒に食事作りを行い、食材の買い物や下ごしらえ、配膳等を行っている。職員は弁当を持参し一緒にテーブルで摂っている。	グループホームの意義をふまえて家庭的な雰囲気大切にすることを目的で、職員が利用者と同じ食事を一緒に食べることを検討されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取・体重等を確認、かかりつけ医や法人の管理栄養士へ相談、状態に応じた支援、食べやすい工夫を行っている。嚥下機能低下防止の為、食前の口腔体操を行っています		

沖縄県（グループホーム「うちな一家」）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促し・できない方へは毎食後、口腔ケア行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しトイレでの排泄を支援オムツ・パット等も時間帯や本人の状態に合わせて見直しています。	排泄については5人の利用者が自立し、残りの利用者も排泄パターンのチェックを行い、日中は布パンツにパットを使用しトイレでの排泄が支援されている。夜間はポータブルやおむつを使用して対応している。排せつ介助については介護計画にサービス目標として位置づけられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録・便秘の方に牛乳や水分補給・薬剤についてはかかりつけ医の指示のもと使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を確認し一日おき午後入浴個々に沿った入浴支援とはいえない。	入浴は1日おきで、職員配置が多い時間帯の昼食後に行っている。同性介助に配慮しているが、職員の勤務体制上現実的には実施されていない状況である。入浴を拒否する場合は、時間をずらして対応し、やむを得ない場合は部分浴及び着替えを支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めているが個別の休息は本人の状態に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の処方箋をファイル保管、、変更時は日誌へ掲示し、職員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換が図れるように外出支援家事作業をお願いし得意分野を發揮でき有する力の活用、役割作りに努めています但不十分である。		

沖縄県（グループホーム「うちな一家」）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は行えていないが、時々散歩や買い物の声掛けを行い外出する機会を設けています。	日常的に玄関先や事業所の周辺を散歩している。初詣やさくら祭り、名所や観光地等、月に1回はドライブに出かけるよう支援している。個別の外出支援で、本人が食べたいおやつ等の買い物に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆んどが事業所で管理しており、1人ひとりがお金を所持できる安心感や使える事の満足には至っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より電話がある時は取次支援していません利用者により間違い電話や、かける回数が多い為制限をかけている場合もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けを意識・換気の入れ替え・室温調整・選曲・アロマ等にて工夫をしています。	玄関には長椅子を配置し、靴の着脱が安全に行えるよう配慮している。玄関正面には、新年にふさわしい飾り付けがなされている。室温、採光は良好で臭気等もなく、加湿器やアロマも活用し、利用者が思い思いの場所で居心地良く過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファー籐イスあり各々好きな場所で過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で写真や家具の持込みもありますが限られた方のみ止まっています。すこしでも温かい雰囲気出すため職員で写真を貼ったり籐イス設置など工夫をしています。	居室はベットとタンスが設置され、利用者の馴染みの衣類掛けや籐イス等の家具が持ち込まれている。思い出の写真や縫いぐるみ、好みの書画等が飾られ、信仰上の仏壇等も持ちこまれ、本人が居心地良く過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きなリスクないが環境のリスクについて話しあっていない。		